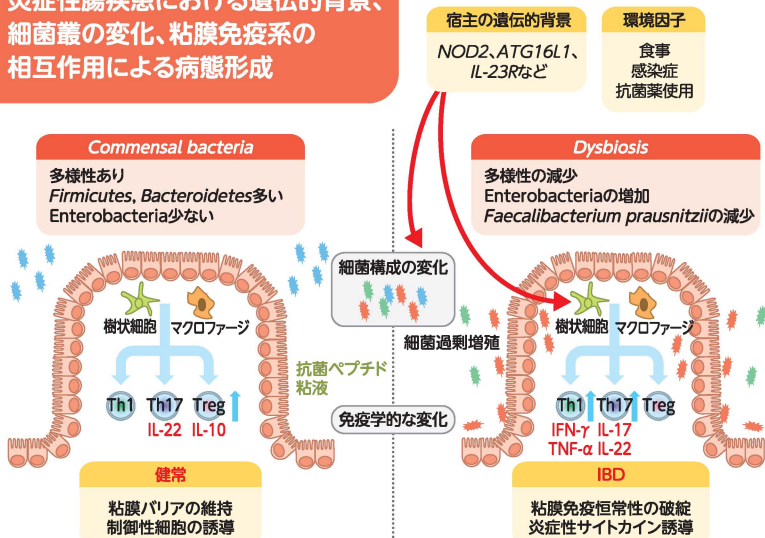


炎症性腸疾患

(潰瘍性大腸炎とクローン病)の原因はまだ解明されていないの今は、患者さんの遺伝的な要素や食事・感染症などの環境、腸内細菌叢の変化などがお互いに作用して免疫のシステムに異常が起こって腸粘膜が傷害されてしまうという考え方が主流になっているのよ



炎症性腸疾患における遺伝的背景、細菌叢の変化、粘膜免疫系の相互作用による病態形成



飯島英樹 他.: 日消誌., 115:244, 2018

Commensal bacteria:常在細菌 **Dysbiosis:**腸内細菌叢(フローラ)の構成が乱れた状態のこと。健康では約100兆個の菌が生息していますが、IBDでは総菌数が減少していると考えられています。 Treg:制御性T細胞 IL:インターロイキン(サイトカインの一種) TNF:腫瘍壊死因子(サイトカインの一種) Th1:ヘルパーT細胞1 Th17:ヘルパーT細胞17 ※ヘルパーT細胞にはさまざまな種類があり、IBDではTh1とTh17が深く関与すると考えられています。また樹状細胞やマクロファージから抗原(異物)の情報を受け取る前はナイーブT細胞といわれ、攻撃の必要性があると認識した場合は炎症性のサイトカインを生み出すエフェクターヘルパーT細胞となります。